



令和8年8月5日

兵庫県内経済情勢報告

(令和8年7月判断)

1. 総論

【総括判断】「緩やかに持ち直しつつある」

項目	前回 (8年4月判断)	今回 (8年7月判断)	前回比較
総括判断	緩やかに持ち直しつつある	緩やかに持ち直しつつある	→

(注) 8年7月判断は、前回8年4月判断以降、足下の状況までを含めた期間で判断している。

(判断の要点)

個人消費は、緩やかに持ち直しつつある。生産活動は、持ち直しつつある。雇用情勢は、テンポが緩やかながらも、持ち直しつつある。以上のことから、県内経済は、緩やかに持ち直しつつある。

【各項目の判断】

項目	前回 (8年4月判断)	今回 (8年7月判断)	前回比較
個人消費	緩やかに持ち直しつつある	緩やかに持ち直しつつある	→
生産活動	持ち直しつつある	持ち直しつつある	→
雇用情勢	テンポが緩やかながらも、持ち直しつつある	テンポが緩やかながらも、持ち直しつつある	→
設備投資	7年度通期は前年度を上回る見込みとなっている	8年度通期は前年度を上回る見込みとなっている	→
企業収益	7年度通期は減益見込みとなっている	8年度通期は減益見込みとなっている	→

【先行き】

先行きについては、雇用・所得環境が改善する下で、各種政策の効果もあって、緩やかに持ち直していくことが期待されるものの、中東情勢や金融資本市場の変動等の影響を注視する必要がある。

2. 各論

【主な項目】

■ 個人消費「緩やかに持ち直しつつある」

百貨店・スーパー販売額は、前年を上回っている。百貨店販売額は、高額商品が好調であったことなどから、前年を上回っている。スーパー販売額は、物価高騰による値上げに伴う売上増加などから、前年を上回っている。

ショッピングセンター販売額は、訪問客の高い購買意欲に伴う客単価の上昇などから、前年を上回っている。

コンビニエンスストア販売額は、都市部の売上が好調であったことなどから、前年を上回っている。

ドラッグストア販売額は、石油関連製品の駆け込み需要などの要因から、前年を上回っている。

ホームセンター販売額は、エアコンの買替えや季節性商品の売上が好調であったことから、前年を上回っている。

家電大型専門店販売額は、エアコンの早期買替え需要などの要因から、前年を上回っている。

乗用車の新車登録届出台数は、税制改正に伴う登録需要の増加から、前年を上回っている。

宿泊施設稼働率は、外国人宿泊客の増加などの要因から、前期よりも上昇している。

これらのことから、個人消費は、緩やかに持ち直しつつある。

(主なヒアリング結果)

- ラグジュアリーや宝飾品等の高額商品の売上が好調である。また中国政府による渡航自粛の影響により、中国人の来店客数は減少傾向にあるものの、富裕層は引き続き来日しており、免税売上高は好調を維持している。(百貨店)
- 来店客数は減少しているものの、商品値上げに伴い客単価は上昇している。中東情勢の影響で、先行きの供給不足や価格上昇への警戒感から石油関連製品の需要が増加している。(スーパー)
- 国内客の売上が堅調であるほか、国外客の売上も台湾や東南アジアを中心とした顧客層に支えられ好調を維持している。全体的に来場者の購買意欲は高く、客単価も上昇している。(ショッピングセンター)
- GW 期間中は近場への外出需要を背景に神戸中心部の店舗が好調に推移した一方、郊外店舗では引き続き節約志向がみられた。中国人観光客は減少したものの、もともとの来店客数が限定的であることから影響は軽微であった。(コンビニエンスストア)
- 物価高により客単価が上昇している。またビニール袋など石油関連製品の値上げ前の駆け込み需要があり、石油関連製品は前年を上回る売上となった。(ドラッグストア)
- 2027 年度の省エネ基準強化の影響でエアコンの駆け込み需要が目立ったほか、4～5 月の高気温により除草用品・殺虫剤・ファン付ウェアなど季節性商品が好調であった。また中東情勢の影響による石油関連製品の備蓄需要が見られた。(ホームセンター)
- エアコンについて、2027 年度からの省エネ基準強化や猛暑予報、「試運転推奨」報道のほか、中東情勢に伴う取付工事資材の不足への懸念などを背景に需要が前倒しとなり、早期買替え需要が大幅に増加した。(家電量販店)
- 自動車の登録時に課税される環境性能割が 3 月末で廃止されたことに伴い、自動車の登録が増加した。物価高による買い控えの傾向は見られず、受注も堅調に推移している。(自動車販売店)
- 物価高による旅行控えや他ホテルとの競合により日本人宿泊客が減少している一方、外国人宿泊客については円安を背景に好調に推移している。特に欧米やタイ、インドネシア、ベトナムからの宿泊客が増加している。(宿泊)
- 宿泊業において、日中関係の悪化により中国人宿泊客が減少したが、宿泊費を引き上げて利益を確保しているという声が聞かれている。(経済団体)

■ 生産活動「持ち直しつつある」

鉱工業指数（生産）は、「輸送機械」や「鉄鋼」等が低下しているものの、「汎用機械」や「電気機械」等が上昇している。また、企業からは、一部で中東情勢の影響を受けているとの声があるものの、半導体・AI・データセンター向けが引き続き堅調に推移しているといった声が聞かれている。

これらのことから、生産活動は、持ち直しつつある。

（主なヒアリング結果）

- 二輪自動車について、北米向けの需要は堅調だが、コストも増加しているため利益的には苦戦している。また、中国市場は国内景気が悪いうえ、地場メーカーの成長による台頭が著しく、低迷している。（輸送機械）
- 自動車向け等において米国の通商政策の影響は特段顕在化しておらず、需要も横ばいで推移している。（鉄鋼）
- 受注、売上ともに堅調である。自動車向け部品は国内メーカーが引き続き増産体制をとっていることから当社への受注も高水準で推移している。（汎用機械）
- 生成AI等で使用されるメモリー半導体向けの需要について、引き続き堅調に推移している。（電気機械）
- 航空機向けやデータセンター向け等において、引き続き堅調に推移している。（非鉄金属）
- 生成AIやデータセンターに使われる半導体製品の需要が引き続き旺盛であり、主要取引先からの受注が好調に推移している。また、生成AIの普及に伴いデータセンターの消費電力が増加していることからガスタービンによる発電需要が高水準で継続しており、当社への受注も好調である。（金属）
- 主要の鉄鋼向けは、従来の物価上昇や中東情勢の影響を受けた各種コストアップに伴い、設備投資意欲が減退し当社への受注が減少している。一方、電力プラント向けは、AI需要拡大に伴う電力需要増を背景に中長期的な設備投資案件が継続しており、当社への受注は安定している。（金属）
- 半導体製造装置向けロボットの需要が引き続き堅調。AI投資の影響で需要増加の流れの継続が見込まれる。（生産用機械）
- データセンターやAI、半導体向けに使われる製品が好調。中東情勢の影響により原料価格は上昇しているものの、調達自体はできている。（化学）
- 売上は横ばいで推移。物価高に伴う買い控えの傾向は特に見られない。中東情勢の影響で包装資材が高騰しており、順次製品価格へ転嫁予定である。（食料品）
- 一部の地元企業からは、有機溶剤、ナフサ由来の樹脂・包装、建築・住宅資材について、仕入価格の高騰や調達難などが生じているとの声が聞かれている。具体的には、建物躯体工事が完了しても、シンナーが調達できないために内装工事の完成が延期となるケースが生じている。（経済団体）
- 中東情勢の影響については、特に建設・不動産関連事業者の関心が高いものの、足元では資材が全く入手できないといった深刻な声は限定的であり、企業側も調達先の多角化や企業間融通等により対応を進めている状況である。（公的機関）

■ 雇用情勢「テンポが緩やかながらも、持ち直しつつある」

令和8年5月の有効求人倍率は、受理地別では0.94倍、就業地別では1.08倍で推移している。

また、法人企業景気予測調査の従業員数判断 BSI について、全産業の現状判断は、令和8年4～6月期調査では36.0%ポイントと引き続き「不足気味」超となっている。

これらのことから、雇用情勢は、テンポが緩やかながらも、持ち直しつつある。

(主なヒアリング結果)

- 多くの企業において人手不足となっているが、人件費や原材料費の高騰が収益を圧迫しているため、一部で求人を控えている企業もある。(公的機関)
- 事業所ごとに過不足感は異なるものの、シニア人材やスポットワークの活用拡大により、全体として求人数は減少傾向にある。(スーパー)
- 離職防止のため継続的に賃上げを行うほか、1on1 ミーティングを実施しコミュニケーションの活性化を図っているものの、人材流出は避けられない。中途採用も年間を通して行っており、アルムナイ採用も実施している。特に制度として確立しているわけではないが、即戦力として期待できる人材であれば積極的に採用している。(宿泊)
- 新規事業への対応や予期せぬ海外情勢への対応など新たな業務が増加している中、生成 AI やエージェント AI を活用して既存業務を効率化し、限りある人材をよりクリエイティブな業務に従事させるようにしている。(汎用機械)
- DX 化による業務効率化に力を入れており、会議の議事録を AI で作成したり、職員全員が AI を使えるようになることを目指し講習会を開いたりしている。(食料品)
- 会員企業に対し「人手不足を理由に仕事や注文を断った、又は営業を控えたか」というアンケートを実施したところ、約6割が何らかの形で人手不足の制約下にある状況。(経済団体)
- 人材確保支援の一環として、人材マッチングサービス事業者との包括協定を締結し、飲食業界からは大変好評となっている。(経済団体)

■ 設備投資「8年度通期は前年度を上回る見込みとなっている」

法人企業景気予測調査（令和8年4～6月期調査）でみると、8年度通期の設備投資は、全産業では「前年度を上回る見込み」となっている。製造業では、「食料品」等が前年度を下回っているものの、「鉄鋼」、「輸送用機械」等が前年度を上回っていることから、全体では前年度を上回る見込みとなっている。非製造業では、「電気・ガス・水道」等が前年度を上回っているものの、「運輸・郵便」、「不動産」等が前年度を下回っていることから、全体では前年度を下回る見込みとなっている。

■ 企業収益「8年度通期は減益見込みとなっている」

法人企業景気予測調査（令和8年4～6月期調査）でみると、8年度通期の経常利益は、全産業では「減益見込み」となっている。製造業では、「食料品」等が増益となるものの、「情報通信機械」、「輸送用機械」等が減益見込みとなっていることから、全体では減益見込みとなっている。非製造業では、「小売」等が増益となるものの、「運輸・郵便」、「不動産」等が減益見込みとなっていることから、全体では減益見込みとなっている。

【その他の項目】

- **住 宅 建 設** 新設住宅着工戸数（令和8年5月、後方3ヶ月移動平均）でみると、前年を下回っている。
- **公 共 事 業** 前払金保証請負金額（令和8年6月、年度累計）でみると、前年を上回っている。
- **輸 出 入** 神戸港の通関実績（円ベース、令和8年4～6月、3ヶ月平均）でみると、輸出は、非鉄金属、建設用・鉱山用機械等が増加していることから、前年を上回っている。
なお、輸入は、前年を上回っている。
- **企 業 倒 産** 企業倒産件数（令和8年4～6月、3ヶ月平均）は、前年を下回っている。
- **企 業 の 景 況 感** 法人企業景気予測調査（令和8年4～6月期調査）の景況判断BSIでみると、現状判断は「下降」超となっている。
先行きについては、全産業でみると、令和8年7～9月期は「下降」超で推移し、令和8年10～12月期は「上昇」超に転じる見通しとなっている。

【問い合わせ先】
神戸財務事務所 財務課
TEL：078-391-6942